

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570201063		
法人名	有限会社ケアハウスぬくもりの里		
事業所名	グループホームぬくもりの里	ユニット名	南棟
所在地	宮崎県都城市五十町2394-5		
自己評価作成日	平成25年10月8日	評価結果市町村受理日	平成26年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;jigyosvCd=4570201063-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;jigyosvCd=4570201063-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成25年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各行事やイベントなど(特に敬老会等)
--------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者は、2つのユニットの異なった個性や状態を把握しながら、職員の自主性を重んじて委ねている。必要があると判断した時に指導したり、さりげなく手を貸している。運営者は、職員に有給休暇の上手な取り方を教えて職員およびその家族への配慮を示している。ホーム自体も地域とのかかわりが保たれているが、職員の家の近所づきあいがホームとのつながりにもなっている。例えば、ひな人形を飾るからホームの利用者を招待したいとの申し出があったり、逆に職員がホームの見学に誘ったりしている。職員の子供がボランティアで紙芝居をしたいと言って、手作りの紙芝居を行い、利用者を喜ばせたこともある。服薬は誤飲を防ぐためと飲みやすいように工夫がなされている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的雰囲気の中で安心して生活出来るように、一人ひとりの個性を生かし、自由に生活できるよう心がけている。	地域で生活してきた家庭環境を大切にするという理念を含めている。運営者が設立時から、文言にすることはなくても地域との関係を大切にしてきたので、職員も理解して支援につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店を利用したり、近所の方々と日々挨拶をかわしている。地域の運動会の見学などを行っている。	公民館長と親しいこともあり、地域の情報が入ってくるため活用している。地域の方が介護の相談に寄ったり、散歩している人をお茶に招いたり、気さくな関係が成り立っている。職員を通して野菜が届けられることがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方が通所サービスを利用している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、利用者の身体状況、活動状況、職員の勉強会などの実践状況を報告している。	利用者の具体的な状況を知ってもらい、委員の認知症への理解が深まっている。職員には口頭で会議の情報を伝達したり、内容によっては職員会議で話し合われることもある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して取り組んでいる。また、不明な点などがある場合は、関係機関に電話連絡を行い協力を得ている。	運営者は、市の担当課からファックスで送られてくる情報について、不明な点を話し合いに出かけることがある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束については十分理解しているが、夜間は防犯の為施錠を行っている。	門扉も玄関ドアも開錠されている。家族から要望があがった時でも、利用者の状態をよく見極め、拘束をしなくて済むように取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	見守りを重視し身体チェック等に心がけ、早期発見につながるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については理解しているが、改めて話し合いの場を設けてない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明には十分な説明を行い、利用者や家族の方に理解してもらい、契約を行っている。入居後の変更時その都度説明を行い、理解を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談員の意見や利用者の意見には常に日頃から耳を傾け、些細な事でも職員全員で確認し対応している。		家族や利用者からの意見や要望が出され、それらは支援にも生かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は意見や相談、提案がある場合は直ちに管理者、運営者に意見、相談を行っている。必要に応じては職員全員で話し合いの場を設け、理解・運営に役立てている。		運営者や管理者等への意見、相談は日ごろから気軽に言える雰囲気があり、それらは運営に生かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務に集中できるように、時間や人員の配置に気を配っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にできるだけ参加し、情報を持ち帰り、内部での勉強会を行い、情報を共有している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者からの情報を得た場合は、勉強会や問題点などについて情報交換などを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の見学時や担当者会議にて、本人、家族の意向を聞き理解するように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状態、家族関係、要望等を細目に把握し、その人に合った統一のとれたケアを行うようスタッフ同士の意識づけを行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	歩行困難や転倒の危険性が見られる方には、福祉用具の利用があることなどを説明している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の気持ちを汲み取った支援を行い、共に過ごし、支えあう関係を保っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の行事などに家族の方々を招待したりし、体調や経過などその都度報告している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの暮らしの中で、その人らしい生活ができるように支援している。知人が訪ねて来られたり、同窓会などに参加されたりしている。	回想法として、昔話をしてなじみの場や習わしを思い出してもらって支援につなげている。近隣の利用者が7～8割を占めているためになじみの場が共通していることもあり、そこに出かけることがある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でお互いを気にされたりして、生活されている事がある。利用者同士の関わり具合に関して支援し、支え合うようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても相談事などには対応している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で利用者の気持ちなどを引き出したり、担当者会議の中で把握している。		選択肢で話しかけたり、表情や行動で知ることに努め、その思いに応える支援がなされている。センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)の「暮らしの情報」を用いて役立てようとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活された経緯を把握し、サービスの中に取り組んでいる。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、個々の心身状態や有する力等、状況の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の中で、職員やケアマネと意見交換し、本人の暮らしの中で生活援助を出来るよう努めている。		3か月ごとの計画見直しがなされている。定期的なモニタリングと家族、利用者の意見も取り入れ作成されている。利用者の状態の変化に応じた計画見直しと作成も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌に記入し、情報共有、計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の希望があれば、いろいろな場面での支援や相談などを随時行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練等を行い、避難場所として地区公民館を利用できるよう体制を整えている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの病院を24時間受診できる体制が整っている。家族、本人の意向により、かかりつけの医院を変更する事もある。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、利用者の状態をいち早く把握し、健康管理に努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状態確認を行い、病状、状態の情報交換を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態を把握しながら、主治医、家族、施設で話し合いを行い、連携をはかっている。また、職員間の連携も図り支援している。		看取りはしないという方針である。医療行為が必要になった場合は、病院でということを入居時から伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングにて勉強会を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の職員が多く働いている。また、家族に協力が得られるように体制を整えている。居室の前には誘導の仕方などの表札が準備されている。			

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の性格を把握し、その人に合った声掛け、対応を行っている。		職員の声かけはトーンを落とした柔らかなものである。トイレ使用中にカーテンが開いていると、さりげなく閉めたり、利用者によっては声かけをして、確認してから対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の意向や希望を重視し、日常生活を送られるように配慮している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールに合わせるのではなく、利用者本人の状態、気分を考慮した快適な生活を目標している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服を選び、タンスの中の整理(衣替え)などを支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の分別、後片付け等も声かけにて行っている。また、職員と会話をしながら食事されておられる。		3食とも厨房で職員が作り、利用者と職員が同じメニューを和やかな雰囲気の中で食べている。2つのユニットそれぞれが独自のメニューであり、利用者の意向を反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を使用し、一日の摂取量を把握できるように記入している。アレルギーやカロリー摂取等がある場合は、職員全員に連絡等を行い支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に声掛けを行い、自力で出来る方に関しては見守り支援を行い、介助を必要とされる方に関しては、三食後施行している。義歯のケアも職員の下、行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者に応じて対応を考えている。時間や随時トイレ誘導を行っている。パット使用の方に対して、より気持ちよく過ごされるように声掛け等を行っている。		歩行器使用の利用者が多いが、排せつは自立している。全介助の利用者にはパターンを把握し、時間を決めて支援している。失禁の不快感を無くすための配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い副食や水分補給を心掛け、運動等も支援している。その人に合った排泄習慣を把握している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人の拒否ある場合や体調に応じては曜日変更を行ったり、入浴希望者には入浴支援を行っている。		入浴日は決まっているが、利用者の希望や体を洗わなければならない状況が生じることが多く、実質は毎日入浴できる状態にある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者本人の希望による場合は、日中でも休息がとれるように支援している。夜間時も利用者本人さんに合わせて支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日バイタル測定を行い、記録している。服薬は名前を確認し、飲み込むまで見守り行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	馴染みの生活が継続できるよう、一人ひとりを理解し、穏やかな生活ができるよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて、散歩や買い物等を一緒に行くなどして支援している。家族対応にて墓参りなどの支援も行っている。		徘徊傾向のある利用者は、行動にそれが表れた時に職員が声かけして、散歩に出かけている。道向かいの高校の学食にある自動販売機まで散歩に行き、飲み物を買って飲むことも利用者の楽しみになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	南棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によっては、自分で小銭程度の管理を行っている。買い物の希望がある場合は、訴えられることもあるので、支援している。本人の持ち物の金銭の把握は管理者が行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話がある場合は取り次ぎ、会話をされている。訴えがある時は電話をかけることもある。また、利用者本人が携帯を持たれ、自ら電話されることもある。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃から清潔に心がけている。掃除機やトイレ掃除、床拭き、手すり拭きを行う。	居室の名札が小さく高い位置にあって見づらかったので、職員が花柄で囲まれた見やすいネームプレートを作成して貼っている。利用者が、高校のグラウンドで運動している生徒の姿を見られるように、廊下の突き当りにベンチが置かれている。厨房からリビングにいる利用者との対話ができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにてソファーに座り、気の合った仲間と談話されたりされる。座る位置も配慮しながら支援している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みの物を自宅より持ち込まれ活用している。利用者本人の欲しい物も必要に応じては、家族が持ち込みされる。	家で使っていた年季の入ったいすや家具類が置かれている。ミシンを使いたいという利用者と家族の要望に沿ってミシンが持ち込まれ、利用者が使用している。室内の飾りつけは、利用者や家族、職員の共同で行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には表札や目印などを掲示し、自分の部屋が分かるように工夫している。			